

## 令和 6 年度 千葉市健康づくり推進協議会 食育推進部会員における 食育推進に関するアンケート集計結果

- 1 対象 千葉市健康づくり推進協議会 食育推進部会員 16名
- 2 回収数 16 (100%)
- 3 調査概要 食育の推進にあたり課題と感じている割合  
はい 56% いいえ 44%
- 4 課題について具体的な内容 (自由記載)

### 子どもを取り巻く環境

- ・小中学校の教職員の食育への温度差がある。学校給食が「望ましい食事の見本」であり、望ましい食べ方を学ぶことは子どもだけでなく教職員にとっても生きる力を向上させることにつながると考える。
- ・全教職員が給食を生きた教材として活用すると、望ましい食事を身に着けた千葉市民が自然に増加し千葉市の健康づくりに役立つと考える。
- ・食育は家庭環境に大きく依存しているため家庭と学校の連携促進が必要。
- ・食育を行う時間が限られているため他の教育活動との調整が必要。

### 歯科について

- ・幼児の咀嚼力の低下、よく噛まずに飲み込むことによる窒息事故防止への取り組みが必要。
- ・給食や持参弁当の中身について。事例や注意喚起の機会を広める機会が必要。
- ・食育と歯科はとても関係が深いので今以上に連携が図れるように検討していきたい。

### 市民全体への啓発

- ・塩分の適正量を知らない。
- ・食塩摂取量の目標を達成するために工夫が必要。
- ・食生活の問題点の認識があるかどうか、行動変容する気があるかどうか、働きかけが重要。
- ・出前授業の依頼は園児や小中学生、高齢者に集中しており、乳幼児～小学生の親子や高齢者の参加が多いため、20～30歳代へのアプローチが難しい。
- ・単に「食育」と言っても非常に幅広い。まずは大人が知識をつけることが大切。
- ・市民へアピールする方法や多くの団体との連携・協働。継続していく難しさ。
- ・食育の成果を測定し、適切に評価・改善する仕組みが必要。

### まとめ

- ・食育に関して半数以上の割合で課題を感じている。大人が知識や意識を持つことが必要と考えられる。
- ・青年期・壮年期へのアプローチが重要である反面、方法については課題と感じている。